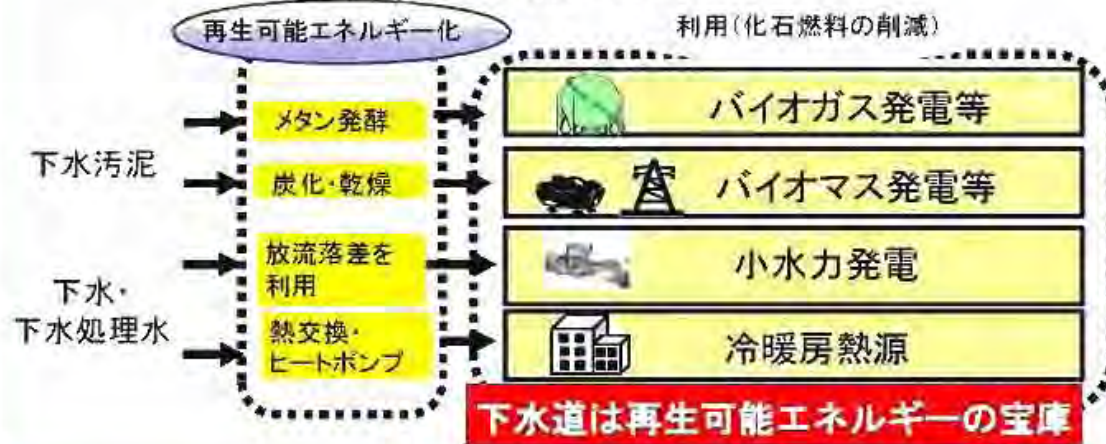


## 下水道における未利用資源・エネルギーの有効利用の促進

### ●再生可能エネルギーで動かすゼロエミッション下水処理システムの実証

下水道における温室効果ガスを大幅に削減するためには、下水処理システムのグリーンイノベーションが不可欠

＜下水道資源の再生可能エネルギー化のイメージ＞



「下水道における革新的な温室効果ガス削減技術の実用化・普及の加速」について経済産業省と連携



革新的な下水処理技術の国際展開に向けたショーケースとしての機能発揮、我が国企業の水ビジネス海外展開を後押し

## 自動車単体対策

### ●大型車(バス・トラック)次世代環境技術の開発・実用化

＜非接触給電ハイブリッド自動車＞

＜スーパークリーンディーゼルエンジン＞



### ●地域交通・物流を革新する超小型低炭素実用車両の開発

＜現在の自動車利用の実態＞

〔平均乗車人員・1.3人  
1日あたり20km未満の走行が全体の40%〕

→ 軽自動車ではオーバースペック



地方自治体のイニシアチブによる低炭素パーソナルモビリティ導入意欲の高まり

地域内小口輸送(住宅地～分散市街地)に最適化された車両開発の必要性

## 鉄道・船舶・航空のエネルギー消費効率の向上

### ●効率的な鉄道システムや航空交通システムの開発

### ●超電導リニアの技術開発推進



- ・地上設備等の設置・維持に多くの費用が必要
  - ・利用客の少ない路線では設備の維持負担大
- ↓
- ・極力、地上設備を省力化した列車運行の仕組みの確立
- ↓
- ・GPSなどの汎用技術の利用によるシステム構築
  - ・情報集中管理体系の構築



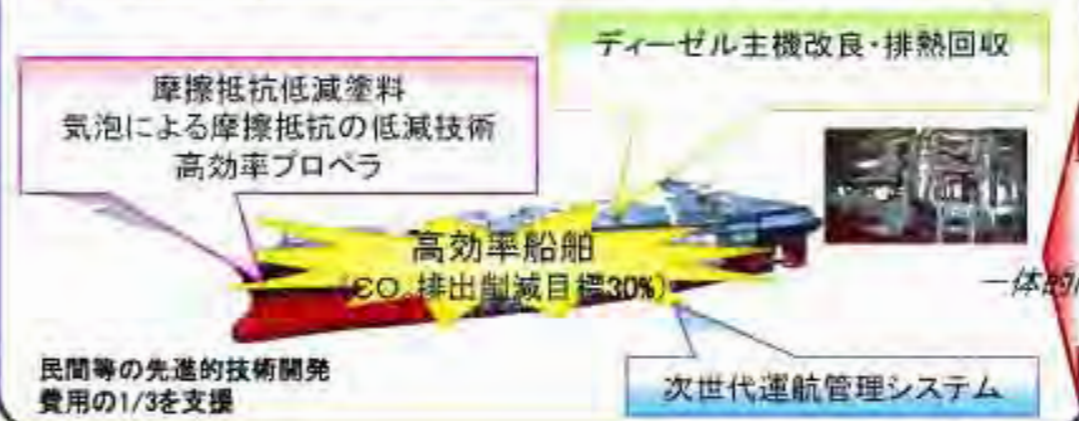
※その他我が国鉄道システムの海外展開も推進

### ●海運における安全・環境性能の向上

※国際海運からのCO2排出(約9億トン、全てのCO2排出の3%)は、現在、京都議定書の適用対象外となっており、ドイツ一国分の排出量に相当。

#### 革新的な船舶の省エネルギー技術の研究開発

#### 国際標準化等の新技術の普及促進に向けた取組み



- 船舶からのCO2排出指標(海の10モード)の国際海事機関(IMO)における国際標準化
  - 環境エンジン(NO<sub>x</sub>低減)の開発・国際標準化
  - 安全を確保しつつ船体の軽量化が可能な国際標準の策定
- 等

一体的に推進

エコ・コンパクトシティ

今後、2020年、2050年のCO2削減目標に対応した次世代低炭素交通社会の実現に向けて、自動車環境対策の3つの要素「クルマ」、「ヒト(使い方)」、「まち」を調和させつつ同時平行的に進化させるための総合的取組みを推進する

野心的な燃費基準の設定による研究・開発の促進

環境対応車に対する税制優遇措置

公共交通・物流のゼロエミッション化に資する次世代基盤技術の開発(次世代低炭素車開発・実用化事業)

環境対応車普及促進(導入補助)



環境対応車導入に向けた地域的取組への支援

次世代自動車(CNG/ハイブリットラック・バス、電気自動車等)の導入に積極的に取り組む地域協議会等を支援(次世代自動車導入加速モデル事業)

クルマの進化  
「自動車の燃費改善」  
「環境対応車の開発・普及」

まちの進化  
「環境対応車の利用環境整備」

ヒトの進化  
(その他)「使い方の最適化」  
「自動車運送事業者の構造改善」

エコドライブ、カーシェアリング等の推進

公共交通機関等の利用促進

環境負荷低減を目指す自動車運送事業者の構造改善の促進

●自動車運送事業者構造改善支援事業  
輸送の効率化等により、環境負荷低減を目指す自動車運送事業者の取組を支援

●CO2削減努力の評価手法、付加価値創出手法の開発  
運送事業者のCO2削減努力について付加価値、経済価値を創出することによりCO2削減の取組みを市場原理により後押し。

地域交通・物流の革新を促す新たな実用車両(超小型モビリティ等)の開発

<超小型モビリティの例>

環境対応車を活用したまちづくり

実証実験を実施した上で、充電施設等の駐車スペースや道路断面等インフラの技術基準等の策定を行うほか、地方自治体等によるインフラ整備等を支援。

